

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
専門学校金沢美専		昭和51年4月1日		宮村 浩気		〒 920-0919 石川県金沢市南町6番12号 (電話) 076-234-3311																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人国際 ビジネス学院金沢		昭和30年3月29日		大聖寺谷 敏		〒 920-0919 石川県金沢市南町6番12号 (電話) 076-234-3311																													
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	文化教養専門課程	ビューティー総合学科	平成6(1994)年度		平成25(2013)年度																														
学科の目的	本校は教育基本法及び学校基本法に則り、専門的な知識技能を習得させ、円満な人格と豊かな情操を養い、もって実社会に直ちに役立つ、有為な人材を養成することを目的とする。																																		
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	(取得可能な資格)ICAM フェイシャルコースサーティフィケート2/ボディコースサーティフィケート2、ICAM トータルビューティー部門 アドバンスドレベル2、ICAM コスメティシャン部門 コスメティシャンライセンス、Diplome Maquillage Creatif International プリメール/アヴァンセ、日本アロマ環境協会 アロマテラピー検定 2級/1級 日本ネイリスト協会 技能検定3級/2級、日本ネイリスト協会 ジェルネイル検定 初級/2級、日本エステティック振興協議会 美容ライト脱毛 安全講習会合格証付与、																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,850 単位時間 単位	360 単位時間 単位	60 単位時間 単位	1,560 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
80人	66人	0人	0%	16%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>22</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>16</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>9</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>56</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>68</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>5</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) エステティックサロン、化粧品販売企業、化粧品メーカー、ネイルサロン、トータルビューティーサロン</p>							■卒業者数(C)	22	人	■就職希望者数(D)	16	人	■就職者数(E)	16	人	■地元就職者数(F)	9	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	56	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	68	%	■進学者数	5	人	■その他			
■卒業者数(C)	22	人																																	
■就職希望者数(D)	16	人																																	
■就職者数(E)	16	人																																	
■地元就職者数(F)	9	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	56	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	68	%																																	
■進学者数	5	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有る場合、例えば以下について任意記載		#REF!		評価結果を掲載したホームページURL																														
当該学科のホームページURL	https://beauty.kbg.ac.jp/																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,980 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>780 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>900 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>120 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,980 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	780 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	900 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	1,980 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	780 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																		
うち必修授業時数	900 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	120 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																		
うち必修単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人	計		4人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して6年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	2人																																	
計		4人																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

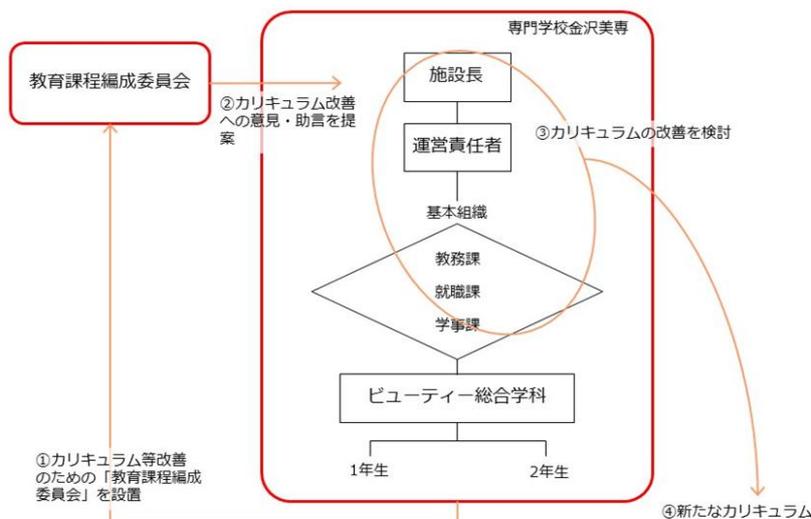
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

美容業界が真に求める人材像及び最新の知識・技術・技能を教育内容に反映するため、美容関連企業、関係団体等との連携により、広く意見を取り入れカリキュラムの改善等の教育内容の改善を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①カリキュラム等の改善のための「教育課程編成委員会」を設置
- ②「教育課程編成委員会」はカリキュラム改善への意見・助言を提案
- ③提案に基づき、学内でカリキュラムの改善を検討
- ④カリキュラムの改善
- ⑤新たなカリキュラムの作成



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
熊野 友勝	株式会社インターステイト	令和6年5月1日～ 令和8年7月31日	③
田中 成臣	石川エステティック協同組合	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	①
東 ちえこ	専門学校金沢美専 施設長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	—
高崎 千愛	専門学校金沢美専 教員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	—
今井 美穂	専門学校金沢美専 教員	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	—
作本 智美	専門学校金沢美専 運営責任者	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

教育課程編成委員会は年2回(8月・2月を予定)開催する。また、必要に応じて開催する

(開催日時(実績))

令和5年9月28日 17:00~18:00

令和6年2月28日 17:00~18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

学生サロンに業界の方に来店いただき、アンケートにご回答いただいたものを学生にフィードバックした。

業界交流会に業界関係者の方にご参加いただき、学生の業界理解が深まった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「専門産業の発展に貢献できる社会人の要請」を建学の精神とし、夢を追い続ける情熱を持ち、高い専門能力を社会で発揮できる人材を養成するため、「社会人力」の向上を図ることを基本方針とする。

学校の建学の精神、教育理念、カリキュラムの構成、学生に対する教育方針のすべてを承諾し、これに基づき講義、指導をなし、もって本校の運営に協力するものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

サロンワークの担当教員は、企業・業界団体等の者から、実務に関する最新の知識、指導方法に対する助言、資料等の提供を受け、実践的な授業の改善・工夫を行う。また、修了後には学生の学修成果の評価を踏まえ、更なる改善・工夫の助言等を得る。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ネイル基礎	1.【校内】企業等からの講師が全ての講師を主担当	ネイリストとしてトラブルなく安全に施術を行うために必要な基礎知識・爪の構造学・扱う薬剤・溶剤の商材知識と理論その上で正しく扱うために実際触れながら習得していく	北野 美菜 (ネイリスト・個人授業主)
ビューティー応用実習	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	1年次前期に修得した基礎技術をベースに、エステ・メイク・ネイルのそれぞれの技術の習熟を図る	北野 美菜 (ネイリスト・個人事業主)
ビューティー実習Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	邦木 奈帆が職業に合わせ、この職業でお客様の要望に合わせて技術を提供する、提案するための応用技術及び接客スキルを学ぶ	北野 美菜 (ネイリスト・個人事業主)
特別講義	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	業界のスペシャリストを招聘して実施する特別講義	邦木 奈帆 (ヘアメイクアーティスト・個人事業主)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等へ担当教員を定期的に派遣または、企業等から講師を当校に派遣していただき、企業ごとの理念、求める人材像・スキル、学校教育との連動について研究し、該当学生に対して企業から派遣される講師と本校教員が合理的に指導出来るよう逐一打合せを行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トレンドメイク	連携企業等:	レニユアンス
期間:	2023. 5. 30	対象:	教員
内容	今後度流行するメイクの技法をパリコレメイクアップアーティストから学ぶ		
研修名:	世界一のセラピストから学ぶ指名学	連携企業等:	石川エステティック協同組合
期間:	2024. 2. 26	対象:	教員
内容	世界一のセラピスト川上拓人から学ぶ指名を得るための接客法		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ICAM検定に向けた指導方法について	連携企業等:	(株)エストロワ
期間:	2024. 2. 8	対象:	2名
内容	今年度の試験内容の振り返り、次年度の指導改善に向けた講義		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	トレンドメイク	連携企業等:	レニユアンス
期間:	2024. 5. 7	対象:	教員
内容	今後度流行するメイクの技法をパリコレメイクアップアーティストから学ぶ		
研修名:	エステティックグランプリ観戦	連携企業等:	石川エステティック協同組合
期間:	2024. 4. 23	対象:	教員
内容	エステティックグランプリを観戦し、エステティシヤンの技術・思いを学ぶ		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ICAM検定に向けた指導方法について	連携企業等: (株)エストロワ
期間: 2025. 2. 14	対象: 2名
内容: 今年度の試験内容の振り返り、次年度の指導改善に向けた講義	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針 企業等の「学校関係者」による意見交換等を通じて自己評価結果についての評価を行うとともに、教職員と共通理解を図り、自己評価結果の客観性・透明性を高め、今後の学校運営改善のための助言等を行う。	

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が教育を行う理念が明確に定められているか ・ 理念は教職員・学生に周知されているか ・ 学校が教育を行う目的・育成人材像などが明確に定められているか ・ 目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか ・ 目的は、時代、業界、学生のニーズに対応しているか ・ 目的・育成人材像は教職員・学生に周知されているか ・ 目的は時代の変化に対応しその内容を適宜見直されているか ・ 学校の将来構造を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の目的・目標に基づき学校運営方針は明確に定められているか ・ 学校の目的・目標を達成するための事業計画が定められているか ・ 学校は事業計画に沿って運営されているか ・ 意思決定システムは確立されているか ・ 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか ・ 意思決定の階層・権限等は明確か ・ 業務効率化を図る情報システムがなされているか ・ 学校運営方針はきちんと教職員に明示され伝わっているか ・ 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか ・ 運営組織はあるか ・ 運営組織や意思決定機能は、学校の目的・目標を達成するための効果的なものになっているか

(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育目標・育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに合致しているか ・ 教育目標・育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育機関を勘案して、到達することが可能なレベルとして明確に定められているか ・ カリキュラムは教育理念。目的達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか ・ カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか ・ カリキュラムを編成する体制は明確になっているか ・ 学生による授業評価をしているか ・ 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか ・ 成績評価・単位認定に基準は明確になっているか ・ 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか ・ 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか ・ 就職製菓とその推移に関する情報を明確に把握しているか ・ 資格取得率の向上が図られているか ・ 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか ・ 退学率の低減が図られているか ・ 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか ・ 卒業生・在校生の社会的活動及び評価を把握しているか ・ 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか ・ 在校生や卒業生の作品や発表が外部のコンテスト等で評価されたか ・ 在校生や卒業生の作品や発表が外部のコンテスト等で評価された例として特筆できるか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され有効に機能しているか ・ 就職に関する説明会を実施しているか ・ 就職に関する学生個別相談を実施しているか ・ 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか ・ 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され有効に機能しているか ・ 奨学金制度が整備され有効に機能しているか ・ 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され有効に機能しているか ・ 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか ・ 定期的に健康診断を行うなどの学生の健康面への支援体制はあるか ・ 学生の健康管理を担う組織体制があり有効に機能しているか ・ 学生からの健康相談等に専門的に応じる医師・看護師等がいるか ・ 学生相談に関する体制は整備され有効に機能しているか ・ 学生相談室を開設しているか ・ 学生からの相談に応じる専門カウンセラーがいるか ・ スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され有効に機能しているか ・ 保護者と適切に連携しているか ・ 同窓会が組織され活発な活動をしているか ・ 卒業生をフォローアップする体制が整備され有効に機能しているか

(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・ 施設・設備のメンテナンス体制が整備され有効に機能しているか ・ 施設・設備の更新に関する計画を立てて計画通りに更新しているか ・ 学外学習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか ・ 学外学習、インターンシップ、海外研修等についてその実績を把握し教育効果を確認しているか ・ 防災に対する体制は整備され有効に機能しているか ・ 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか ・ 実習時等の事故防止の体制は十分か ・ 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか ・ 防災訓練を実施しているか ・ 学生の問題行動について対応できているか!
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動は適正に行われているか ・ 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かりやすいものとなっているか ・ 志望者等の問合わせ・相談に対応する体制があるか ・ 募集定員を満たす募集活動となっているか ・ 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか ・ 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか ・ 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか ・ 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか ・ 学費は教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか ・ 学費に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか ・ 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか ・ 年度予算・中期計画は、目的・目標に照らして有効かつ妥当なものとなっているか ・ 予算は計画に従って妥当に執行されているか ・ 財務について会計監査が適正に行われているか ・ 会計監査を受ける側、実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか ・ 私学学校法における財務情報公開の体制整備は出来ているか ・ 私学学校法における財務情報公開の形式は考えられているか
(9)法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志願者、学生や卒業生及び教職員等、学校が保有する個人情報に関しその保護のための対策が取られているか ・ 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか ・ 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか ・ 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか ・ 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか ・ 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか ・ 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか ・ 自己点検・自己評価結果を公開しているか ・ 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか ・ 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか

(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のボランティア活動を奨励支援しているか ・学生のボランティア活動の状況を把握しているか ・広く教育機関、企業・団体及び地域との連携・交流を図っているか ・学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか ・学校の施設・設備を開放するなど地域社会と連携しているか ・重要な社会問題について学生や教職員に対し啓発活動を行っているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・入学者を増やす為の施策
- ・退学者を減らす為の施策
- ・就職指導に関する施策

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

#REF!

名前	所属	任期	種別
熊野 友勝	株式会社インターステイト	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	企業等 委員
田中 成臣	石川エステティック協同組合	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日	業界団体 等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://beauty.kbg.ac.jp/>

公表時期: 令和6年6月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対する情報提供に関しては必要な情報の内容を精査し、それに応じた情報提供を行うとともに提供する情報が古いものにならないよう、定期的に更新するなど最新の情報提供に努める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <学校の概要> ・ 学校の沿革・歴史 ・ 所在地、連絡先等 ・ グループ校 <目標及び計画> ・ 学校の教育理念
(2) 各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者数 ・ 就職者数 ・ 学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ・ 資格取得実績
(3) 教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職支援等への取組状況(企業等との連携による具体的な取組)
(5) 様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課外活動(サークル活動、放課後活動、学生会活動)等の状況
(6) 学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用できる就学支援措置の内容等(授業料免除措置、奨学金等の案内等)
(8) 学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己評価・学校関係者評価の結果 ・ 評価結果を踏まえた改善方策
(10) 国際連携の状況	

(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL: <https://beauty.kbg.ac.jp/>

公表時期: 令和6年9月

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
1	○			美容学	各現場で必要となる基礎知識を皮膚科学、解剖生理学等の視点と関連法規の観点で学修する。	1年・後	30	○			○	○		
2	○			化粧品学	エステティシャンは化粧品を用いて施術を行い、美容部員は化粧品を販売することから、必要な知識（肌トラブル別の適した化粧品の選定・使用方法・特性）を学修する	1・2年・通	120	○			○	○		
3	○			アロマ学	アロマセラピーの目的を知り、正しい知識を学修し、これらの事を学生サロン（AER）での接客やサービスに生かせるようにする。	2年・前	30	○			○	○		○
4	○			エステティック基礎	エステ（フェイシャル）の分野における基礎知識（例えば、なぜその手法を行うのか、行う事での効果は何か、どの部分に効果があるのか、どの筋肉・皮膚に効果があるのか、商材の成分にどんな効果があるのかなど）を、実際に相モデルで実践しながら学修する。	1年・前	120			○	○	○		○
5	○			メイクアップ基礎	相手にメイクアップを施す際のマナーをはじめメイクアップの流れを学ぶ。時代背景と共に変化するメイクアップの特徴や歴史、メイクアップテクニックを学修する。TPOに合わせたメイクの特徴、メイクアップテクニックを理解する。	1年・前	120			○	○			○
6	○			ネイル基礎	ネイリストとしてトラブルなく安全に施術を行うために必要な基礎知識・爪の構造学・扱う薬剤・溶剤の商材知識と理論その上で正しく扱うために実際触れながら習得していく。	1年・前	120			○	○			○
7	○			サロンワーク実務Ⅰ	学生サロン（AER）で、店舗実習を行うに際しての、エステ・メイク・ネイル等の技術、接客、カウンセリング等の習熟を図る為に各メニューでチェックを行い、弱点を強化し全メニュー合格を目指す。	1年・後	120			○	○	○		
8	○			ビューティ実習Ⅰ	学生サロン（AER）の「メニュー技術」の習得を目的とし、技術・カウンセリングの強化を行う。リフレクソロジーやクイックマッサージ、ひざ下のムクミ取りの実習を行い、各技能の習熟を図る。	1年・後	180			○	○	○	○	
9	○			ビューティ応用実習	前期に修得した基礎技術をベースに、エステ・メイク・ネイルのそれぞれの技術の習熟を図る	1年・後	60			○	○	○	○	○
10	○			サロンワーク接遇	基本的な接遇を習得することが本講義の目的である。接遇ができるようになるだけでなく、サービス提供者としての資質を身に付け、社会人としての意識醸成をはかり、即戦力として通用する人材育成を図るものである。	1年・通	60	○			○			○
11	○			キャリアアップ	就職活動に向けて、自分が思う長所・短所、他人が思うそれとの違いを分析し、自己アピールの際での表現力の育成を目指す。あわせて、履歴書、志望動機、面接に於ける応答内容の整理につなげる。	1・2年・通	120	○			○	○		
12	○			ビューティ実習Ⅱ	将来目指す職業に合わせ、その職業でお客様の要望に合わせて技術を提供する、提案するための応用技術及び接客スキルを学ぶ。エステティシャン、美容部員・ネイリストと専攻に合わせて授業を選択する。	2年・通	600			○	○	○	○	○
13	○			サロンワーク実務Ⅱ	実店舗サロン研修「AER」にて、接客・施術（ネイル・エステ・化粧品販売）を行い、接客力・技術応用力・販売力を持ち備えたエステティシャン・コスメティシャン・ネイリストを目指し実践力を身に付ける	2年・通	240			○	○	○		
14	○			総合演習	エステ・メイク・ネイルの技術修得の成果を作品作りとして表現する。ビューティライブの全体構成や表現法を考案し表現する。各種検定対策を実施する。	2年・通	60			○	○	○		
15														#
合計						14	科目	1980 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	所定の修業年限以上在学し、課程を修了したと認められた者には、卒業証書を授与する。	1	2
履修方法：	学期に定める教育課程についてすべて履修する。	1	15

（留意事項）

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。